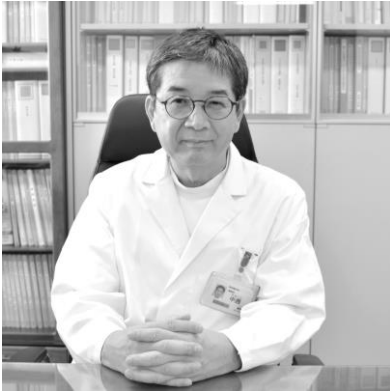


院長挨拶



愛媛県立中央病院 院長 中西 徳彦

このたび、菅政治前院長の後任として、2023年4月1日より院長を拝命しました中西徳彦です。就任にあたってご挨拶申し上げます。

2020年に始まった新型コロナウイルス感染症は、医療現場に大きな影響を及ぼし、県民の皆様にもご不便、ご心労をおかけしました。当院も手術制限、一部の病床休止など診療制限を行ってまいりました。県民の皆様のご協力に感謝申し上げます。

当院の昨年度の診療実績は、手術 7,451 件、内視鏡 9,371 件、救急車搬入 3,889 台と、新型コロナウイルス感染症前より一時的に減少したところから、持ち直しつつあります。それに伴いまして、入院収益 182 億円、外来収益 83 億円と前年より増加傾向にあります。しかし、薬品費、診療材料費は増加の一途をたどり、両者をあわせた材料費率は 38.2% となっています。これらは免疫チェックポイント阻害薬などの癌治療、あるいは TAVI などの高度先進医療を推進するに伴って高額となることは避けられません。さらに報道によると電気料金の値上げも決まっているようですので、こちらも大きな負担になりそうです。

さて、当院は現在地に新築移転して今年で 10 年の節目を迎えます。「県民の安心の拠り所となる病院であること」という基本理念を掲げ、標準的で良質な医療を提供してまいりました。この言葉の下、

高度救命救急センター、がん治療センター、総合周産期母子医療センター、小児医療センター、腎糖尿病センター、消化器病センター、循環器病センター、脳卒中センター、総合医療センターといった各部門が連携して診療にあたっておりますが、効率的な病院運営には医療連携が必須です。地域医療連携室を通じて、前方連携、後方連携に努めておりますが、おかげさまをもちまして、2022 年度は紹介率 76.4%、逆紹介率 122.5%、平均在院日数 11.4 日となっております。

医療職の働き方改革は、2024 年の開始まで 1 年となりました。働き方改革推進本部の指導の下、各診療科でチーム主治医制の導入、カンファレンスの勤務時間内実施、タスクシフトなどに取り組み成果をあげてきています。

人材確保は当院のきわめて重要な課題であり、教育は当院の使命です。医師のみならず、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師、理学療法士など、当院にはこの地域で医療の発展に貢献できるスタッフがそろっています。高度医療を行いつつ後進を育成していく、職員もやりがいを感じつつ成長できる、そういった環境を整えてまいります。

引き続き当院へのご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。